

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4072300462
法人名	社会福祉法人 南八女福祉会
事業所名	グループホームいずんじま
所在地	福岡県八女市川犬1025
自己評価作成日	令和2年2月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 福祉評価センター		
所在地	福岡県北九州市戸畑区境川一丁目7番6号		
訪問調査日	令和2年3月23日	評価結果確定日	令和2年4月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

お茶畑に囲まれた静かな立地を生かし、落ち着いた空間の中でゆっくりとした時間を送る事ができるように配慮し、サービスを提供している。近くにある保育所・小学校の通学路も近くにあり、子供たちとの交流も行いながら地域に根差したサービスを提供している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

周辺には茶畑や田畑もあり、広い敷地内には、多くの花や木々が植えられ、四季を感じながらの散歩やテーブルを持ち出しお茶会をしたり、日常的な外出の支援に努めている。中庭から光が差し込む居間には、椅子やマッサージ機が置かれ、居室に籠りがちにならないようにと日向ぼっこを楽しんだり、ゆっくりとくつろげる工夫がされている。近隣にある小学校にて人権のまちづくりをテーマとする「ふれあい広場」の催しに、利用者と共に参加・出店を行い、児童や地域の方との触れ合いの機会を設けている。アンガーマネジメントや高齢者虐待防止、理念や倫理等研修を通じて、職員の人権教育、啓発に努め、高齢者の尊厳を大切にされたケアに繋げている。法人として、スタッフの人材確保のため外国人労働者の受け入れも行い、安定した介護サービスを提供できるように努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームの運営理念をユニットの各所に掲示し職員だけではなく入居者・入居者家族にも理解してもらえるように実践している	運営理念である「真心・安心・敬う心」を事業所内の各所の目につく所に掲示しており、職員は常に確認・意識しケアに繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議では民生委員・主任児童委員に参加を要請し、地域で開催される祭りにも積極的に参加している	近隣にある小学校で毎年11月に開催される「ふれあい広場」の祭りに店の出店をし、利用者の参加もあり、児童や地域の方との触れ合いの機会を設けている。また事業所にボランティアの慰問などがある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	24時間365日スタッフが居る状況と地元小学校の通学路という地域環境を考えて、子ども110番(安全ハウス)の登録を継続している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	年間行事の報告や事業所の取り組み研修の内容など報告・説明を行ないサービスの向上につなげる事ができるようにしている	2ヵ月毎の運営推進会議には、民生委員や市担当職員、地域包括センター職員の参加を得て、事業所の運営状況や取り組み等、利用者の生活の様子が分かるように写真で紹介している。	運営推進会議に家族や地域の関係者の出席がみえない状況であり、貴重な意見の取り込みとして出席できる様、今後の工夫に期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政と地域密着型サービス事業所で行っているサービス連携会議や運営推進会議等で交流を図っている	運営推進会議には、市担当職員や地域包括支援センター職員の出席を得ており、空き状況等、事業所の実情についての共有もされている。行政が事務局を務める地域密着型サービス運営連絡協議会議等の活動を通して、連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わないように研修を取り入れている。玄関の施錠は行わない	運営推進会議でも職員研修内容や身体拘束事例を基に意見交換がされている。身体拘束の理解や認識を深めていけるよう職員研修の機会を確保しており、一人ひとりが意識して、玄関施錠を含めて身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内外での研修を通じて今後も防止に努める		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	本人や家族の申し出がある場合に資料を交え説明等行えるようにしている	以前、制度の活用をされていた方もあり、申し込みや相談時に資料を用いて話をしている。職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、それらを活用できるよう支援している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行ない理解を求めよう交付している		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約書及び重要事項説明書交付時苦情処理の件に関しても説明を行なっているが、現時点で実績はないので運営への反映は行われていない	意見箱を設置しているが投函はほとんどなく、面会時や行事への参加時にコミュニケーションを図り、意見や要望等を聴き、運営や介護サービスに反映するようにしている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行なう定例会議の中で議題や今後行いたい研修など意見を聞き取り反映している	基本全職員参加の定例会やユニット会議等で活発な意見交換がなされている。書類関係やマニュアルの見直し・改善等に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	可能な限り配慮している		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	年齢や性別・国籍等で可否の結果を出すことはない。一人ひとりの能力や人柄で判断している	法人全体として、技能実習生や永久資格を持った外国人労働者の受け入れを行っている。定年後の再雇用制度も導入している。有給取得についても積極的に推進し、資格取得や自己研鑽に活かされるよう配慮している。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	事業所内研修に取り入れてる	高齢者虐待防止や理念、倫理等について、法人及び事業所内での研修を通じて、職員の人権教育、啓発に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外での研修に積極的に参加できるように配慮している定例会議ではそれぞれのスタッフが自ら研究発表を行なっている		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	八女筑後地区介護保険事業者連絡協議会・八女市地域密着型サービス連携会議に所属し、定期的に開催される勉強会・研修等に参加している		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	精神・身体状況を家族に記入もしくは聞き取りを行ない可能な限り把握できるよう努めている		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に困っていた事や不安に感じていた事等聞き取りを行ないホームでの生活に役立てることができるようにしている		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居を決めるまでの間ぎりぎりまで介護を続けている家族の状況を考えて、サービス開始の相談に乗ることができるよう心掛けている		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者との関係を築けるよう努力している		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	サービスを行なう上での家族からの情報は不可欠なので綿密な連携をとれるように関係を築いている		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	努めている	利用前からのかかりつけ医院や行きつけの理容店の利用等、馴染みの関係継続の支援が行われている。年末年始に家族と家に帰られらたり、友人の方が近所の方の様子を話しに來られたりすることもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係が損なわれないよう声掛けを行ないそれぞれの会話やコミュニケーションが取りやすいように席の配置など配慮している		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて情報の提供を行なえるよう配慮している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	可能な限り配慮している	入居時や家族の面会時のアセスメントを通して思いを把握するようにしている。職員は、日常の会話や関わりの中で思いや意向を把握するようにしている。希望により、好みの飲み物を定期的に配達してもらうようになった事例もある。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の情報と本人・家族からの聞き取りを行ない生活の把握に取り組んでいる		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の業務日誌・個人記録等で状態の変化に気づけるよう配慮している		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現状に沿ったホームでの生活に満足できるよう配慮している	介護計画は、基本6ヶ月毎の見直しと心身の状態変化に応じて見直しをしている。モニタリングにて介護記録等を基に職員と計画作成担当者で話し合い、現状の確認を行い、意見や提案を収集し、ケアプランに反映させている。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りの為の記録を複数準備して、その時々状態に応じた記録ができるように考えている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同一敷地内にあるデイサービスセンターとの交流や地域への祭り等へ参加を行ない入居者が様々な場所へ出かけることができるように配慮している		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している			
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居以前からの主治医は継続する方もいる。事業所として主治医と良い関係が築けるよう努力している	利用前からのかかりつけ医との関係性に配慮した継続支援もある。個別の対応として、3か所の協力医院からの往診があり、適切な医療を受けられるように支援している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職と看護職の関係はスムーズである		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後、MSWや病棟看護師などの病院関係者との情報交換に努めている		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所としての重度化・終末期になった場合の対応方法を入居説明時、契約時に書面をもって説明を行ない承してもらっている	入居時に、重度化した場合や終末期に向けたケアの方針について説明をし、意向を確認している。希望があれば看取りの対応はしており、状況の変化に伴い、本人や家族の意向、主治医や職員との話し合いを重ね、その人の暮らしの継続と終末期のケアの支援を実施している。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時の対応方法や緊急時対応の方法などマニュアルを用いて初期対応できるように心掛けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	通報・避難・消火訓練を行なっている。夜間を想定した訓練も行ない地震等の災害に応じた訓練も行なっている	火災や水害・地震等の自然災害に関するマニュアルを作成し、年間を通して避難訓練を実施している。AEDの設置やガスコンロ等の緊急炊き出しセットの準備をしている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇や言葉使いの研修やDVD等も準備して各自学ぶ事ができるようにし、日ごろから対応できるようにしている	アンガーマネジメント研修受講職員による伝達研修や接遇、言葉遣い、個人情報保護等の研修を実施し、職員の意識向上に取り組んでいる。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の中で問いかけるような声掛けを行ない自ら決定できるよう働きかけている		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な限り支援している		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望により買い物に出かけ好みの洋服を購入し身だしなみに気を付けている		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれの役割の中で段階的に手伝う機会を設けて無理のない範囲で準備や片づけを行なっている	昼食は、管理栄養士による献立のもと、法人厨房にて調理されている。メニューによっては事業所で調理をしている。利用者の出来る事を大切にし、準備や後片付け等をしてもらっている。干し柿づくりやおやつ作りなど楽しみの工夫もしている。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の計算のもと食事を提供している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎日行なう。義歯も洗浄剤を使用し毎日ケアを行なっている		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	水分摂取量と排泄の状況の確認を行ない定期的な声掛け・誘導に努めている。	1L～1.5Lを目標にした水分摂取量や排泄状況を把握し、タイミングを見ながら、声かけ・誘導に努めている。便秘対策として、ヨーグルト等の乳製品も取り入れている。布パンツ使用の方もおられ身体機能維持・自立継続に向けた支援をしている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医の指示のもと予防に取り組んでいる。食物繊維や乳製品等必要に応じて取り入れ便秘の予防を行なっている		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴の準備を行なっている。それぞれ週に2～3回入浴を行なえるよう配慮している。本人の希望や体調等見極め支援をしている	入浴の準備は毎日行い、希望や体調、状況等に応じて、週に2、3回は入浴できるように配慮している。入浴拒否がある方への声かけ工夫や同性対応での支援もしている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午睡等行ない状況に応じて対応している		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医から全ての薬の説明をもらい、薬科辞典も常備し理解を深めている。また、地域の薬剤師との連携を行ない薬の使用や管理方法なども取り入れている		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	カラオケやカルタ、その他レクリエーションを行ない、それぞれが楽しめるように支援をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	敷地内害問わず散歩を積極的に行っている。また外出レクを通じて四季を感じてもらい普段は出かけない場所へも行けるよう配慮している	周辺には茶畑や田畑もあり、広い敷地内には、多くの花や木々が植えられ、四季を感じながらの散歩やテーブルを持ち出しお茶会をしたり、日常的な外出の支援に努めている。季節の花見等の外出行事も実施されている。今年は、家族参加の行事を計画しているところである。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出レクや買い物の際にお小遣いから買い物を楽しんでいる		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	全ての部屋に電話を引くことができる。最近では携帯電話を持ち込み家族等自ら連絡を取れるようにしている入居者もいる		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	光の差し込む居間では日向ぼっこができる椅子やマッサージも行なえるよう配慮し居心地の良い空間を気がけて作るようにしている。	中庭から光が差し込む居間には、椅子やマッサージ機が置かれ、居室に籠りがちにならないように日向ぼっこを楽しんだり、ゆっくりとくつろげる工夫がされている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う入居者同士が近くに座れるよう座席の配置を考えている		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅から使い慣れた家具等持参する入居者もいる。廊下に面した外扉と内扉を配置してプライベートなスペースとして住みやすくなるよう配慮している	各居室には内扉を配置し、プライベートに配慮されており、タンス等、馴染みの品々が持ち込まれ、思い出の写真が飾られたり生活感のある空間となっている。テーブルで毎日、新聞を読まれる方もおられ本人の生活のこだわりにも配慮し、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室には本人の部屋と認識できるように配慮し部屋を間違えないようにしている		